

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 1 報
千葉県農林水産部
平成30年5月23日

4月植えは生育が進んでいます 中干しが遅れないよう注意しましょう

[生育概況]

育苗期は高温が続き、苗は平年よりも葉齢が進み、やや徒長気味で、移植も早くなりました。4月植えは天候に恵まれて生育は進んでおり、草丈は長く、茎数は多い傾向にあります。また、5月植えは5月上旬の低温と強風により一時的な生育停滞があり、平年並みとなっています。

表 1 品種別の生育状況（5月21日現在）

| 品種 | 植付時期 | 平年比※ | | |
|-------|-------|------------|------|------|
| | | 葉令の進み | 草丈 | 茎数 |
| ふさおとめ | 4月20日 | やや早い | 長い | やや多い |
| ふさこがね | 4月20日 | 早い | 長い | 多い |
| コシヒカリ | 4月20日 | やや早い | やや長い | 多い |
| | 5月1日 | 並 | やや短い | 並 |
| ふさのもち | 4月20日 | 並 | 並 | 並 |
| | 5月10日 | 移植直後のため、省略 | | |

※平年比は過去10か年（2008～2017年）の平均値との比較。

ただし、ふさのもちは過去8か年（2010～2017年）の平均値との比較。

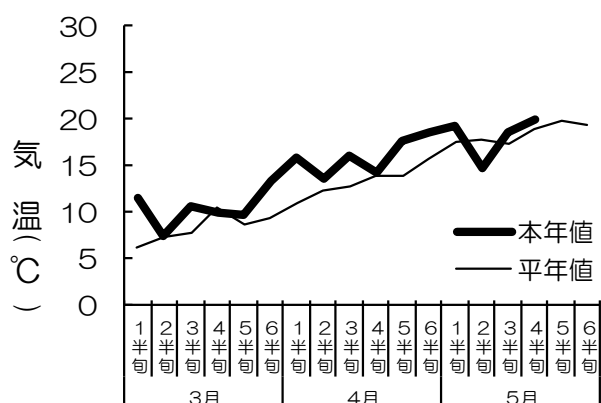


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

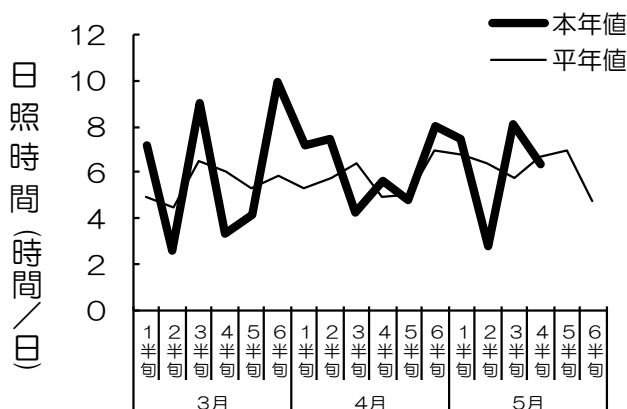


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ ほ場ごとに茎数を確保し、中干しの適期実施

本年は4月の天候に恵まれたことから、4月20日に植付した水稻の生育が進んでいます。分けつも旺盛で、すでに一部のほ場では中干し開始の時期となっています。

中干し管理は、過剰分けつを避ける重要な管理です。適正な茎数管理に加え、根の活性を高め登熟向上や倒伏防止につながります。中干し開始の目安は、「表2」の中干し開始時期の目安を参考にします。

表2 品種別の中干し開始時期の目安

| 品種 | 植付時期 | 中干し開始目標茎数 | | |
|-------|-------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| | | 砂質 | 壤質 | 粘質 |
| ふさおとめ | 4月20日 | 480本/m ² (27本/株) | 480本/m ² (27本/株) | 440本/m ² (24本/株) |
| ふさこがね | 4月20日 | 360本/m ² (20本/株) | 360本/m ² (20本/株) | 360本/m ² (20本/株) |
| コシヒカリ | 4月20日 | 320本/m ² (18本/株) | 310本/m ² (17本/株) | 300本/m ² (16本/株) |
| | 5月1日 | | | |

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安。

※極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがある。

■ 病害虫の適期防除

病害虫発生予報第2号（農林総合研究センター5月16日）によると、スクミリンゴガイ、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ヒメトビウンカの発生量はやや多い予報です。また、気象予報では今後の気温が高く、降水量が並か多のことから、葉もち病の発生しやすい条件となっています。発生が多い場合は早めに防除を実施しましょう。

○スクミリンゴガイ

スクミリンゴガイは、九十九里沿岸部を中心に被害が発生しています。植付直後の水稻苗を食害します。思わぬ集中加害を受け収穫皆無となる場合もあり、植付後しばらくは油断禁物です。また、貝の特性を理解した水管理や初期の食害を避けるための防除薬剤を上手く利用することが重要ですが、加えて地域活動により全体の密度を減らす取組も必要となります。

○ヒメトビウンカ

ヒメトビウンカは、イネ縞葉枯病を媒介します。本病は葉や葉鞘に黄白色の縞状の病斑を生じ、発病株は分けつ不良となり枯死します。県北部を中心に発生が多くなっており、本病の発生地域は成虫飛来期の5月下旬から6月上旬に薬剤防除します。

■ イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田でイネばか苗病が発生し放置すると、収量などに影響するほか、胞子が飛んで周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、その採種ほ場では種子としての出荷ができなくなる場合があり、優良な種子の供給に支障をきたす恐れがあります。

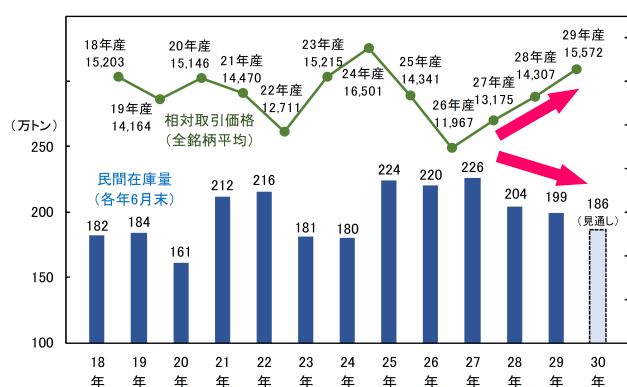
稲作農家の全体に係る問題ですので、本病の発生が見られましたら、種子感染となる出穂期までに罹病株を株ごと抜き取り、田んぼから離して埋設処理するか焼却するなど新たな感染源とならないよう防除をお願いします。

まだ間に合います！

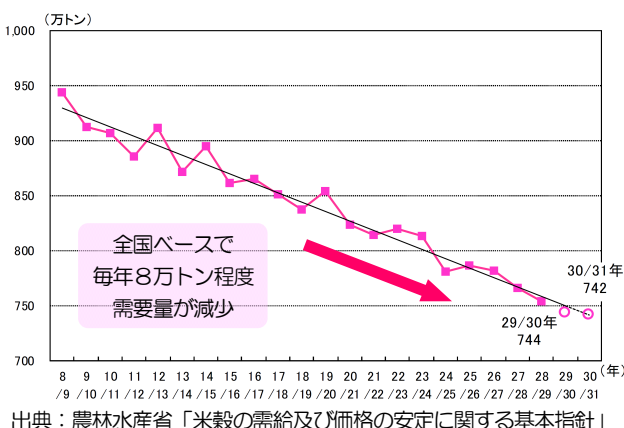
飼料用米等に取り組みましょう！

- 食生活の変化や高齢化等により、お米の需要量は年々減少しています。
- これまでと同じようにお米を生産すると、供給量が過剰となり、米価の下落を招く可能性があります。
- 需給の安定のためには、昨年まで飼料用米等を作付けしていた方々の継続した取組だけでなく、これまで取り組んでいなかった方々の新たな取組が必要です。

【 相対取引価格と民間在庫量の推移 】



【 米の需要量の推移 】



飼料用米をおすすめする理由

- ① 配合飼料工場や畜産農家など、大きな需要があります。
- ② 水はけの悪い湿田でも、作れます。
- ③ 既存の機械や施設を、そのまま使えます。
- ④ 支援策が充実しており、安定した収入を確保できます。
- ⑤ 主食用米の需給が改善し、米価回復が期待できます。

詳細は、**お住まいの市町村役場等へお問い合わせ**ください。